

4.6.1

佐倉市

教育センターだより

Vol.57

令和4年6月1日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043 (486) 2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0_6.html



教育センター開所20周年を迎えて

佐倉市教育センター所長 田中 雅明

佐倉市教育センターは、平成15年4月に開所して、今年で20年を迎えました。これもひとえに多くの方々からのご指導・ご鞭撻があつたことと感謝しております。

平成15年、佐倉市教育委員会は、これからの佐倉の教育のめざす方向性を示す「佐倉教育ビジョン推進計画」を策定しました。それとともに、「歴史・自然・文化のまち佐倉」の特色ある教育の実現に向け、教育に関する様々な課題の調査・研究や各種相談活動の推進をめざし「佐倉市教育センター」が佐倉市立佐倉東小学校内に開設されました。その当手を振り返ると、平成14年に新学習指導要領が改訂され、新しく「総合的な時間の学習」が新設されました。この改定では、「生きる力」を身につけさせ、生涯学習社会への移行を促し、各学校で創意工夫し特色ある教育活動を展開する事が求められた年でもありました。開所当時の紀要を見てみると、新学習指導要領・評価規準に関する調査報告、学校週休5日制調査報告、佐倉学に関する調査報告など、その時代に合わせた調査報告を実施した事が記されています。また、平成25年度～27年度までの3年間、文部科学省の委託を受けて「インクルーシブ教育システム構築モデル事業（スクールクラスター）」の研究に取り組みました。その研究から、特別な支援を必要とする子どもが、「みんなと一緒に、適切な支援を受けながら、最大限に能力を発揮できるようになるための体制づくり」の推進を現在も進めています。

このように教育センターは、その時代に合った情報、教育課題の調査研究・開発、就学相談、教育相談を中心に佐倉市の教育の発展のためスタートしました。開所当時から継続している事業もあれば、新たにできた事業もあります。また、事業内容もその時のニーズに合わせて変化してきています。そこで、改めて教育センターの7つの事業の中から主な4つの業務につきまして、紹介させていただきます。



<教育相談事業>

- ・友人関係、不登校、いじめへの対応など、学校状況に応じて「心の教育相談員」を配置し、早期発見・早期解決をめざします。
- ・学校教育相談員による相談活動や適応指導教室の運営を通して児童生徒の「学校復帰」、また登校に至らない状況の中で「居場所の提供」「自主性・自発性の育成」をめざします。
- ・学校教育相談員による発達相談を通して、発達に課題のある児童生徒のより良い成長を支援していきます。

<特別支援教育推進事業>

- ・教育支援委員会において、発達に課題のある幼児・児童・生徒について保護者の願いを尊重しながら、適切な就学先や支援内容を検討します。
- ・特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への適切な支援を行うことで、主体的な学習の実現を図ります。また、各校の必要に応じて特別支援教育支援員を配置します。

<インクルーシブ教育システム推進事業>

- ・学校支援コーディネーターを活用し、ことば等の発達に課題のある児童の教育的ニーズを正しく理解し、あらゆる場で合理的配慮に基づく適切な支援が受けられるようにします。
- ・障害の有無のかかわらず、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒について、地域の関係機関が連携して支援に当たることができる体制づくりをします。

<学力向上推進事業>

- ・市内小中学校に通う児童生徒の国語、算数・数学、理科、外国語の基本的な学力の一部と、国語、算数・数学の知識及び技能を活用する力について現状を把握し、授業改善を図り、学力向上をめざします。

他にも、「学校図書館活性化事業」「教育センター普及振興事業」「道徳教育推進事業」があります

現在の教育センターの大きな役割の一つとして、特別支援教育や教育相談の中心的な役割を担っております。今後もそのようなニーズが高まる傾向があります。それらのニーズに応えていくためにも、開所当時の志を引き継ぎながら、佐倉市の子どもたちや教職員のため、諸先輩方々をはじめ、多くの方々にご協力を仰ぎながら環境整備や調査研究を進めていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。

令和3年度 佐倉市学習状況調査

～学力向上・学習内容の充実のために～

令和3年度佐倉市学習状況調査について、調査の概要と、基本問題の正答率から考察した手立てをまとめました。また、学習意識調査より、児童生徒の携帯電話の所持率と家庭内のルールについてまとめました。ここでは調査結果の一部のみ掲載しています。

調査の概要

教科と内容	対象								
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
国語 A (漢字の読み書きや言葉の使い方などの基礎問題)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国語 B (目的や意図に応じて文章・資料の内容や構成の効果をとらえ、自分の考えを書く問題)					○	○	○	○	○
算数・数学 A (計算や図形などの基礎問題)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
算数・数学 B (様々な場面を想定し、数・量・図形などに着目し、課題解決を図っていく問題)					○	○	○	○	○
理科 (エネルギー・粒子・生命・地球の内容に関する基礎問題)			○	○	○	○	○	○	○
外国語 (リスニング、語形変化、表現方法、読解、英作文等)					○	○	○	○	○
学習意識等に関する調査 (学習への意識や生活習慣等について)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐倉学に関する調査 (佐倉市にまつわる意識調査)	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※その他、教職員対象の意識調査(授業改善、研修、地域とのかかわり等について)も実施しました。

基本問題の結果と授業改善の手立て

各教科の基本問題の中から正答率が高い問題と低い問題をピックアップし、今後、授業を実施していく上での工夫・改善の手立てをまとめました。

国語A 漢字の読み書きや言葉の使い方についての問題

- 漢字を読むことはよくできているが、意味を考えて漢字を書くことに課題がある。
 - 語彙を増やし、既習の漢字を積極的に使い、漢字を適切に書く努力をすることが大切。(読書・言葉の意味を考える・国語辞典や漢字辞典の活用・作文・漢字練習等)。



学年	正答率が高い問題	正答率が低い問題
小2	海 ※読み 98.5%	頭を下げる ※書き 75.7%
小6	真面目 ※読み 99.5%	財政が厳しい ※書き 28.6%
中3	光沢 ※読み 97.1%	署名のお願い ※書き 48.0%

外国語 リスニング、語形変化、場に応じた表現、読解、英作文等

- 自分の好きなことについて聞き取ることができるが、主語を「私たち」として表現することに課題がある。
 - 主語が「I」以外のときの表現方法について、様々な場面を想定して練習する。
- 中学校2年生では、英文の内容を正確に読み取ることはできるが、英作文の正答率が低い。
 - 日常の中で、英作文による自己表現をする機会を設ける。

学年	正答率が高い問題	正答率が低い問題
小6	自分の好きなことに関するリスニング 95.0%	1人称複数数の適語選択 57.7%
中2	内容を正確に読み取る 87.9%	英作文による自己表現 48.8%



算数・数学A 計算や図形などの基礎的な内容についての問題

- 小学校2年生では、たし算は定着しているが、ひき算は正答率が低い問題もあった。
→間違いやすい計算等は、誤答例を取り上げて「なぜ違うのか」を話し合う。
- 小学校5年生では、公式を用いた求積はできるが、体積の単位の換算の正答率には課題がある。
→公式を導き出す過程を大切に、「なぜそうなるのか」を考えさせることが重要。
- 中学校1年生では、正負の数の計算はよくできるが、素因数分解には課題がある。
→令和2年度から1学年のはじめに学習することになった内容なので、丁寧に扱う必要がある。
年度の途中で再度確認する機会を設けるなど、定着を図る工夫が必要。

学年	正答率が高い問題	正答率が低い問題
小2	534 + 29 93.0%	142 - 75 83.0%
小5	縦6m、横4m、高さ5mの直方体の体積 91.1%	1㎡はC㎡何かを答える 74.1%
中1	(-21) ÷ 7 93.7%	30を素因数分解する 56.5%



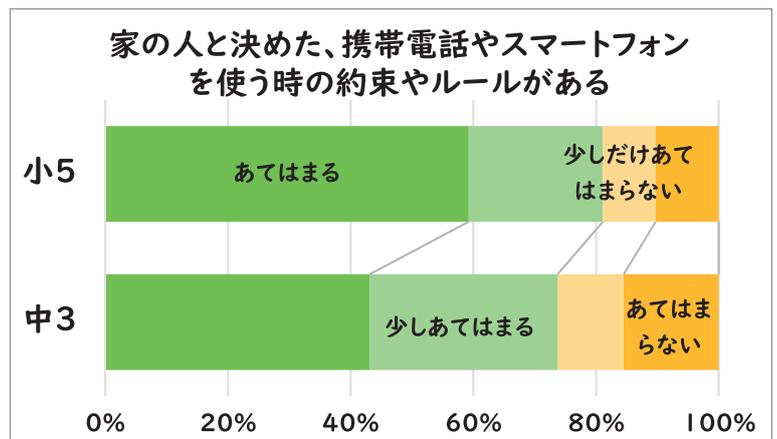
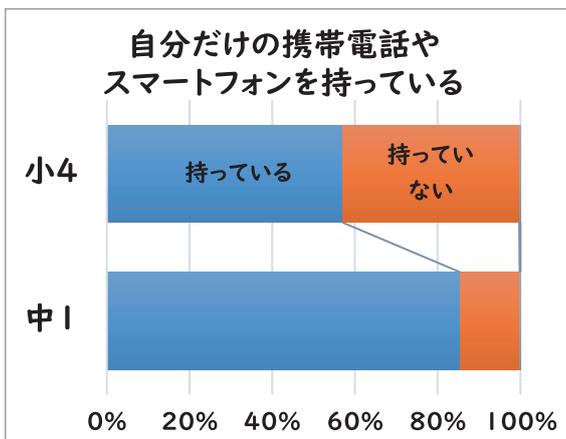
理科 エネルギー・粒子・生命・地球の基礎的な内容について問題

- 小学校3年生では、音や力の基礎的な知識は定着しているが、光については課題がある。
→屋外での観察・実験となるが、結果の集約、考察、まとめの部分については机上でしっかりと考えを書かせたり、板書でまとめ上げたりする過程を確実に進行。
- 中学校3年生では、気象単元において用語の意味は理解できているが、現象の理解に課題。
→空気の流れと雲のでき方を関連付けながら低気圧と前線の構造を立体的につかむとともに、実際に前線が通過した際には観測結果や天気図と併せて現象を捉えたい。



学年	正答率が高い問題	正答率が低い問題
小3	ゴムの力のはたらき方に関する問題 96.2%	光の重なりと明るさの関係についての問題 78.4%
中3	偏西風について回答する問題 76.8%	温帯低気圧の前線面の様子を選択する問題 45.7%

学習意識調査より～携帯電話の所持率と家庭内でのルール～



上のグラフは、児童生徒を対象とした学習意識調査の一部です。児童生徒の携帯電話やスマートフォンの所持率は学年が上がるにつれて増加傾向にあります。一方、「家の人と決めた、携帯電話やスマートフォンを使う時の約束やルールがある」について、肯定的な回答をした児童生徒は学年が上がるにつれて減少する傾向がありました。

昨年度、全小中学校の児童生徒にタブレットパソコンが配備されたこともあり、情報モラルを含めた情報活用能力の育成を一層進めていく必要があると考えます。また、約束やルールは一度決めるだけでなく、発達段階に応じて、守るための工夫の仕方や生活時間の管理方法などを考えていくことが大切です。

教育センター事業

学力向上推進事業

- ・佐倉市学習状況調査
- ・好学チャレンジプリント作成
- ・全国学力・学習状況調査
- ・教育課題調査研究

教育相談事業

- ・適応指導教室の運営
- ・教育電話相談室の運営
- ・心の教育相談員配置
- ・学校教育相談員の活用推進

特別支援教育推進事業

- ・就学指導・就学相談
- ・特別支援教育関連
- ・特別支援教育支援員配置

道徳教育推進事業

- ・佐倉学道徳副読本
「佐倉の道徳」活用推進
- ・佐倉学道徳教材の作成

学校図書館活性化事業

- ・学校図書館司書研修会
- ・学校図書館担当者会議
及び研修会
- ・学校図書館司書派遣

インクルーシブ教育システム推進事業

- ・発達相談
- ・言語通級指導教室の運営

教育センター普及振興事業

- ・センターだよりの発行
- ・センター報告会の開催

特別支援教育へのサポート～適切な支援による着実な成長を～

発達相談

担当の学校教育相談員：山辺浩子・谷上千秋・高澤正枝
学校支援コーディネーター：野老優子・長谷川真紀

学校（園）生活や家庭生活でうまくいかないことが多い、勉強についていけなくなっている、発音や聞こえに心配がある等、困難さが見られる幼児・児童・生徒、その保護者を対象に相談事業を行っています。

必要に応じて保護者の承諾のもと、諸検査等を実施して、より詳しく実態把握を行い、結果に基づく適切な支援について担任の先生とも連携を図り、充実した学校生活につなげていきます。

就学相談

担当の指導主事：深澤朱美・楠川栄治

保護者や学校からの就学に関する相談に応じます。学校・関係機関等と連携しながら、その子どもにとって一番望ましい就学の方法や、適切な教育支援の内容を一緒に考えていきます。

各相談の実施日時・場所・連絡先

○相談日 月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）

午前10時30分～午後5時00分

○場所 佐倉市将門町7（佐倉市立佐倉東小学校内） ○電話 486-2400



佐倉市の教育相談事業 ～自分のできることを少しずつ…～

適応指導教室

何らかの理由で学校生活に不適應な状態になっている児童・生徒に対して、学習や小集団生活の場を提供しています。教室には、学校教育相談員7名を配置しています。

相談員や子ども同士の交流を通して、自己肯定感を高めるとともに、一人一人が安心して生活し、少しずつ学校復帰や希望する進路へ向かうことができるよう支援していきます。また、保護者・学校・適応指導教室が一体となった不登校相談のネットワークづくりを進めています。

○開設日：月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）午前10時～午後3時

・児童生徒の活動は 午前10時～午後3時 となります。

佐倉市西志津4-1-2
（西志津ふれあいセンター2階）
電話 489-1002（第2・4月曜日お休み）

※小集団による活動を行っています。
コミュニケーション能力の育成や学習支援をしています。

志津教室

佐倉市栄町8-7
（佐倉市ヤングプラザ2階）
電話 484-6611

※個別対応を中心に学習支援をしています

佐倉教室

教育電話相談

「教育電話相談室」では、市民、保護者、児童・生徒など様々な方からの相談を受け付けています。経験豊富な相談員が丁寧に対応し、アドバイスを行います。より専門的なアドバイスを受けられる相談窓口の紹介もしています。

電話 484-6611

心の教育相談員

小学校8校に心の教育相談員を配置し、児童・保護者の悩みや不安に関する相談を受け付けています。友達関係や学校に関すること、生活の中での悩みも遠慮なく相談できるような関係作りを心がけています。また、子どもの様子を捉え、さりげなく声をかける等の支援も行っています。